

ワオキツネザル

マダガスカル固有種です。しっぽがしましのため、ワオ（輪尾）キツネザルとよばれています。

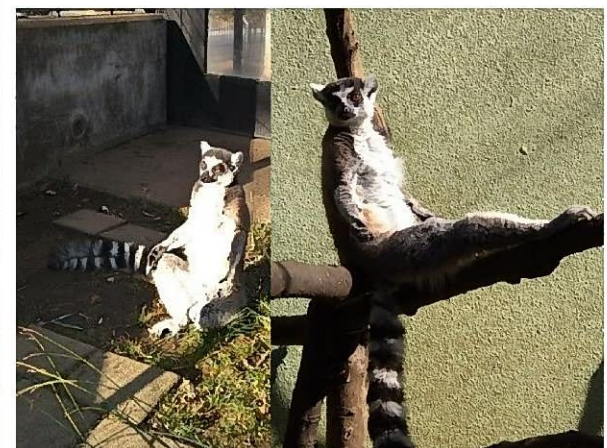
地上にいることも多く、数頭のメスとオスの群れでくらしています。群れの中心はメスで、一番いいものを食べ、なわばり争いのときも、メスが中心となって戦います。長いしっぽは仲間への合図や、オスの順位づけなどに使われます。



おもに植物を食べていますが、ときどき昆虫や小動物なども食べます。



地上を歩いて移動することも多いです。長いしましみのしっぽは仲間への合図にも使われます。



朝はよく、すわってひなたぼっこをしています。

レムール(キツネザル)を取り巻く現状

人間がマダガスカルに移り住んできたことで、農業や家畜の放牧などをするために、森林を切り開いたり、野焼きをしたりするようになりました。キツネザルを捕まえたり、牛やヤギなどの外来種を持ち込んだりしました。そのため、いまキツネザルは、絶滅の危機に瀕しています。環境の変化にうまく適応できず、すでに絶滅してしまったキツネザルもいます。

現地の人たちにも生活があります。自然破壊をしないですむように、観光資源を活用してエコツーリズムなどを行い、人間の生活と環境保護を、どちらもうまくいくようにしようとしています。ですが、まだまだ道半ばです。

キツネザルのかわいい仕草を見るとき、少しだけ、キツネザルたちの現状に思いを馳せてみてください。そして、私たちになにができるか、ぜひ一度考えてみてください。

